谷岡道子さん（双葉町健康福祉課）

■ 活動内容

復興庁の市町村応援職員として双葉町いわき事務所に駐在し、健康福祉課で保健師業務に従事しています。仮設住宅の訪問や体操教室、集団健診など避難されている町民の健康づくりに携わっています。

■ 活動を始めたきっかけ

東日本大震災当時は、結婚を機に転居した沖縄で生活していました。家族や人々のつながりを大切に暮らす島の生活を続けるうちに、自分もふるさとでそんな生活ができたらと思うようになりました。震災から5年、出身地である福島県へ家族でUターン、保健師として被災地支援に携わる機会を得られました。

運動前の健康チェックをする谷岡さん

私たち、頑張っています！

復興庁 福島復興局
新たなステージ 復興・創生へ Reconstruction Agency

■ 活動を通じて思うこと

現在も双葉町は全町避難が続いており、避難先は全国に散在しています。
生活環境も変化し、住民支援は個々に合わせた対応が求められています。
その際欠かせないものが「連携」です。別々に生活する家族や避難先の自治体、関係する団体など多くの人が関わり、対象となる人をサポートする側のチームワークも重要となります。些細と思われることでも直接話し、協力して取り組めるよう心がけています。
また、生活が変わることのストレスは、私自身何度かの移住で経験し、落ち着いた日常生活が送れることの大切さを実感しています。
将来も住民が健康であり続けるために、一人ひとりが今の環境のなかで日常生活を送り、「幸せ」と感じる時を多く持てるようにサポートしていきたいと思っています。

健康体操教室の様子

■応募を考えている皆様へ

被災自治体といっても様々です。あれこれ考えるよりも来てみないと分からないことが多かったように思います。
私自身、何が自分にできるのかと不安もありましたが、駐在と同時にUターン移住となった「縁」と思っています。まずはこの場所に興味をもつことから。
サポートする側それぞれに経験や想いはあると思いますが、「復興支援」と意気込むことなく、日々の業務が支援に繋がるものと考えます。
肩の力を抜いて応募されてはいかがですか。
震災後数年経った今だからこそ必要なことはあります。地味かもしれませんが、将来に続く住民の健康的な姿をイメージし、焦らず被災市町村住民に寄り添いすすめる地域の保健師業務があります。

復興庁では被災地の復興のために被災市町村で働く意欲のある方を募集しております。詳しくはコチラ http://www.reconstruction.go.jp/topics/main-cat9/sub-cat9-3/20161226100112.html